

科目コード	科目名	単位数
0041	英語 I	2 単位

教材コード 000019

教材名 英語 I

著者名等 小川 睦子

■教材の概要

大学生の英語教本としてそれなりの内容を持ち、平常な英語で書かれた米小説、J.Cheever の Goodbye, My Brother と英小説、F.Towers の The Little Willow を取り上げました。読んで鑑賞してほしいと思いますが、それには文の構造を知って正確に読むことが大切です。英語は語順によって語句の機能が決まる言語です。『英語 I』ではこの 2 編の小説を使って文中における語句の位置と機能を理解する練習を第一に考え、注釈では複雑な構文をできるだけ詳しく説明しました。

■学習計画のポイント

文法書を参照して注釈の初めのページにまとめてある基本事項を復習してください。実際の英文は基本文型の中に分詞構文の句や関係代名詞の節が一見複雑に挿入されていますが、基本事項の繰り返しです。基本さえ押さえれば解釈できます。時々英文を写して構文を分析する練習が効果的です。辞書はこまめに引いてください。意味はその単語の文中の機能によって選択し、決して勘で訳さないこと。新しい単語は発音記号にも注目が必要です。

■学習上の留意点

- ① 基本の 8 品詞の働きをよく理解すること。
- ② 動詞を中心とした、5 つの文型と日本語との関係を理解すること。
- ③ 以上の事を単語レベルで理解するだけでなく、句、節のレベルで理解すること。
- ④ 時には和訳を書いて、筋の通った解釈をしているかどうか確かめてみる。

■参考文献

今持っている文法書、新たに買うなら『英文法解説（改訂 3 版）』江川泰一著（金子書房）など。

科目コード	科目名	単位数
0042	英語Ⅱ	2単位

教材コード 000020

教材名 英語Ⅱ

著者名等 高橋 公雄

■教材の概要

現代英語の理解のために、イギリス、カナダ、アメリカの三人の作家の短編小説で教材を編んである。現代の作家の書く英文はひと昔前のものに比べ、素直な構文で、それでいて美しい。そうした特徴を楽しみながら、英文を読み解く喜びを味わうように、注釈も親切に書かれている。内容理解のためには基礎的な文法、単語、熟語の知識を修得の必要性はいうまでもない。その上に、美しい日本語の書ける努力を忘れないでほしい。

■学習計画のポイント

とにかく辞書を引きつつ、意味をとりましょう。英語は頭から読み下すものです。後ろから訳し上げようとせず、前から出て来た単語順に意味をとってください。まず、主語と動詞をつかみ、次に目的語・補語、そして修飾語の順に英文を把握していきましょう。さらに大切なことは、テキストの文脈をしっかりとさえながら読むということです。がんばりましょう！

■学習上の留意点

- ① verbals（準動詞）をしっかりとやっておこう。文構造の知識を再認識しておきたい。
- ②（複合）接続詞－ほとんど熟語に近いもの－を勉強しよう。

■参考文献（主として文法取得のために）

『英文法解説（改訂3版）』江川泰一郎著（金子書房）

科目コード	科目名	単位数
0043	英語Ⅲ	2単位

教材コード 000021

教材名 英語Ⅲ

著者名等 真野 一雄・金子 利雄

■教材の概要

本教材は Lynd と Russell の随筆と、Tolkien の小説をとりあげています。随筆と小説という形式の違った読物に慣れ親しんでいただくことが第一目標です。次に、注釈の相違からわかるように、前半では正確な構文解釈ができるように文法事項の説明に力点が置かれており、後半では行間の意味を取ることと英語で意味を解釈することをねらいとしています。

■学習計画のポイント

ページ 1～10

英文を日本語に訳す際に、正しい意味の通った日本語になっているかどうかを確認すること。正確に文構造を理解するために、注釈の説明と練習問題を試みることは効果的です。それでも理解し難い人は、基礎的文法書を参照してください。

ページ 11～33

この単位では、先程の文構造を正しくとらえるだけでは文の意味を正確に理解できません。注釈に基づいて、語句の二重意味構造を文脈から、あるいはイマジネーションからつかむようにしてください。

■学習上の留意点

- ① 英文和訳ができること。
- ② 8品詞の働きを理解すること。
- ③ 5文型と動詞の種類を理解すること。
- ④ 指示語の理解すること。

■参考文献

『英文法解説（改訂3版）』江川泰一郎著（金子書房）

科目コード	科目名	単位数
0044	英語Ⅳ	2単位

教材コード 000371

教材名 『Get It Write』

著者名等 市川 泰弘・Peter Serafin

■教材の概要

英語の技能には Reading, Writing, Listening, Speaking の4技能がある。その中で Writing に関して多くの学生は英語の日本語に「訳す」作業を行い、英語のニュアンスを理解しようすることはまれである。この教材は Non-native Speaker が間違いやすい表現を選び、どのようにすれば英語らしい英語を書くことが出来るかを理解するために作られた教材である。さらに日本人が苦手とするパラグラフライティングの基礎を理解するセクションも加えられている。さまざまな表現が項目ごとにまとめられ、また使い方については Passage によって具体例がしめされている。

■学習計画のポイント

最初に Passage が示されているので、太字 (bold) になっている表現を注意しながら、どのようなことを伝えているのかを理解する。2～3ページは Exercise になっている。Exercise A はどちらがより適切な表現の英文なのかを理解する。わからない場合は日本語訳をつけてみて、どこが問題なのかを考えてみる。Exercise B はどこが英文として誤りであるかを見つける。誤りがある場合とない場合があるので注意する。どこが間違いかわからない場合は日本語訳をつけてみるとよいであろう。どうしてもわからない場合は Common Errors を参照しても良い。Exercise C はできるだけ日本語の直訳はさけ、英語らしい表現を意識しながら作文してみると良い。Paragraph Writing では Passage の英文を参考に、Paragraph Writing の基本を理解し、練習問題を行ってもらいたい。

■学習上の留意点

すぐにヒントや答えに頼るのではなく、出来る限り自分の力で英文を完成させたり、間違いを指摘してほしい。また、調べなくてもわかった部分と調べてわかった部分、調べてもわからなかった部分をちゃんとまとめて、さらに定着するように努力をしてもらいたい。

■参考文献

Collins COBUILD for Advanced Learner's English Dictionary Longman Dictionary of Common Errors

科目コード	科目名	単位数
0045	英語V	2単位

教材コード 000023

教材名 英語V

著者名等 田室 邦彦

■教材の概要

Xenophobe's Guides「外国人恐怖症の人のために書かれた、(外国人についての)ガイドブック」と銘打たれた叢書の一冊である本書は、鏡の中の鏡に映っているようなイギリス人自身の外国人恐怖症も含めて、イギリス人の思想・言動及びイギリスの社会制度の、多少なりとひねこびた側面の戯画である。外国人がイギリス人の言語表現に触れるとき、その言語表現の前提となっていて従って明示されていない、イギリス人が共有している思想や相互についての知識などを、その解釈に織り込めないために、理解に苦しむ場合が少なくない。その意味での言語の背景的知識を得るのに本書は益するところが多いであろう。また、一瞬の油断もできないイギリス流のユーモアでひねりした文体は、イギリス英語のユーモアの修辭法あるいは論理を知るためのいい素材となると思われる。

■学習計画のポイント

上に記したような文体であるために、言葉と言葉との歯車がかちっと噛み合わないで焦ることが多いと思われる。そういうときには、だまし絵を眺めるように、暫く時をおいて改めて眺めていただきたい。ジグソーパズルのすべてのピースがピッタリ合う喜びを得られるであろう。

■学習上の留意点

語注はすべて English-English の学習辞典からの引用である。英英辞典の常として、その定義から、それぞれの語句に、それを他の語句から区別するどのような意味要素が含まれているかがよく判るはずである。その用例から、その語句が用いられる典型的な文脈や連語関係 (collocation) が見える。しかし語句が本当に理解できるのは、現実の使用の中からである。こう使うのかと頷きながら語句をものにしていただきたい。

■参考文献

テキスト編纂から数年の間にインターネットで得られる情報量は格段に増大してきた。Oxford Advanced Learner's Dictionary (<http://www.loup.co.uk/elt/oald/>) も Cambridge International Dictionary of English (<http://www.longmanwebdict.com/>) なども今では online で引くことができる。活用していただきたい。

科目コード	科目名	単位数
0046	英語基礎	2単位

※この科目は文理学部文学専攻（英文学）は不配当です。

教材コード 000294 / 000313

教材名 『Welcome to College English コミュニケーションのための大学英語入門』
 『Welcome to College English コミュニケーションのための大学英語入門』(学習用ガイド)
 ※2冊組み

著者名等 大島 眞・加藤 忠明・菊地 圭子・竹前 文夫・松本 理一郎・W.F.O'Connor

■教材の概要

高等学校で学ぶべき英語の復習を目標に作成されており、また学び直すのにも役立つ生涯学習用の教材でもあります。各 Unit は Point 解説、日米の異文化理解に役立つ英文（Culture Note）、3つのレベルの演習問題で構成されています。別冊「学習用ガイド」では詳しい解説、演習問題の解答、訳例等が記されています。

■学習計画のポイント

各 Unit の Point にある例文、Culture Note の英文をノートに何回も書き写しましょう。そして一人でも必ず声を出して読んでください。声を出して読むことが大切です（Culture Note の英文は CD に収録されています。）英語のリズムと正しい発音を覚えてください。

レベル1～3の演習問題の答は教材に書き込まないで、ノートに書きましょう。正しいか誤りか、誤りならどこが誤りか、なぜ誤りか「学習用ガイド」で確認します。自分で考えることが重要です。いきなり「学習用ガイド」を見てはいけません。こちらの英文も声を出して読んでください。

■学習上の留意点

英語と日本語の発音は異なります。「学習計画のポイント」でも記したように正しい発音・リズムを習得することも大切です。教材 Unit 6 で発音とアクセントを学習してください。個々の発音について、さらに学習したい人は下記の参考文献の CD を聞いて、英語の発音に耳を馴らし、同じように言えるように練習を積み重ねてください。

■参考文献

『英語の発音がよくなる本 CD 2枚付』巽一郎（中経出版）

他にも同様な CD 付の本が数社から出版されています。いくつか書店に常備されているでしょう。

科目コード	科目名	単位数
0051	ドイツ語Ⅰ	2単位

教材コード 000024

教材名 『あなたのドイツ語—授業のための文法講義ノート』

著者名等 佐々木 稔・金成 陽一

■教材の概要

ドイツ語の文章構造を基本から平易・詳細に説明し、複雑だといわれる変化詞の語形変化についても、理解しやすいように表示されている。ドイツ語文法の要といわれる「格」の用法の理解から、配語法に基づく文章構造の分析にいたるまで、ドイツ語文に関する全体の知識が無理なく修得できるよう配慮されている。文法の説明文も丁寧に付されており、例文にはすべて訳文がつけられているので、初心者の独習用教科書としては最適なものだと考えられる。

■学習計画のポイント

ページ1～23

ドイツ語の文法構造を支える一方の柱ともいべき「格」の用法について、平易な例文をあげながら詳細に説明し、初心者がドイツ語の学習に無理なく入っていけるよう記述されているので、ゆっくり丁寧に学習してほしい。

ページ24～41

「再帰動詞」と「非人称動詞」という新しい動詞の用法や「形容詞」や「副詞」の用法という、ドイツ語文の意味構造の微妙なニュアンスを規定する品詞の特性について学ぶ。「接続詞」の用法も含めて新しい文法の特徴について学習する。

ページ42～55

ドイツ語の文章構造を特色づける「時称」、とりわけ助動詞と本動詞の組み合わせによって表現される「複合時称」、未来形や完了形の文法構造について学ぶ。

ページ56～74

時称の助動詞と共に、文章のニュアンスを表わす「話法」、文章の形態を表わす「受動」の助動詞、基本動詞がさまざまな前綴字と結合して形成される「複合動詞」、動詞の意味の微妙なニュアンスを添える「接続法」について学習する。

■学習上の留意点

- ① 格の用法に基づく「冠詞類」の格変化。動詞の現在人称変化。
- ② 形容詞の格変化、比較変化。再帰動詞・非人称動詞の用法。接続詞の用法。
- ③ 動詞の時称形態、とくに複合時称の形態。
- ④ 話法の助動詞の用法。受動文の構造。複合動詞の種類。接続法の用法。

■参考文献

- 『はじめて学ぶドイツ語（新装版）』榎本重男著（東洋出版）
 ※『ひとりで学べるドイツ語』榎本重男著（東洋出版）
 『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』中島・平尾・朝倉著（白水社）

科目コード	科目名	単位数
0052	ドイツ語Ⅱ	2単位

教材コード 000441

教材名 『ハンブルグの風 ドイツ語文法読本』

著者名等 川嶋 正幸・中村 憲治・Klaus Schlichtmann

■教材の概要

「ドイツ語Ⅰ」で学んだドイツ語文法の基本的な知識を復習し、ドイツの文化・生活・歴史に触れる文章を辞書の助けを借りながら読み、さらにテキストに即した練習問題を解くことによって、内容の理解と文法的基礎の確立ができるように配慮されています。また添付されているCDをよく聞き、自分の口で発音し、それを自分でしっかり聞き取ることによって、単語の発音やアクセントのみならず、文章のイントネーションまでもマスターすることができます。文章を覚えてしまうくらい何度も発音して下さい。

■学習計画のポイント

ページ iii ~ 33

- ① 単語の発音をしっかり復習し、主語の人称によって変化する定動詞の人称変化形、人称代名詞や所有冠詞、名詞の性・数・格によって変化する冠詞類の格変化をしっかり復習して、ドイツ語の基本構造の核となる部分に関する知識を整理してください。
- ② (ページ18より) 前置詞、話法の助動詞、分離動詞や非分離動詞、再帰動詞、非人称動詞、形容詞の用法や形容詞の比較変化といった、ドイツ語の基本構造を補完する部分を復習してゆきます。これ以降に復習してゆく、時制、関係文、態、接続法なども、これまでの部分がしっかり理解できていれば容易に理解できるはずですが、基礎をしっかり固めないと結局空中分解してしまうことになりますので、あわてずにじっくりと理解するようにしてください。

ページ 34 ~ 51

- ③ 動詞の三基本形(不定詞、過去基本形、過去分詞)の構造と時制をここでしっかりと学び直します。動詞を運用するためには不規則動詞の三基本形をしっかりと覚えておく必要がありますので、教科書の52ページから57ページの主要不規則動詞変化表にある動詞を覚えるようにしてください。
- ④ (ページ42より) 関係文と受動文、そして接続法の構造を復習します。接続法は、日本語の尊敬語や謙譲語のように難しいと敬遠されがちです。しかし尊敬語や謙譲語でも、それが尊敬語や謙譲語であることが解れば、あとはどのような使い方が考えればよいはずですが、接続法の構造は規則的で、接続法であることを見抜くことは易いからです、あとは何のためにこの接続法が使われているか、一つ一つ理解してゆけばよいのです。是非文法書を手がかりにじっくり復習してください。

■学習上の留意点

- ① 単語の発音。動詞の現在人称変化。冠詞類の格変化。
- ② 前置詞の格支配。話法の助動詞の用法。複合動詞や再帰動詞、非人称動詞の用法。形容詞の用法。
- ③ 動詞の三基本形。時称の形態。
- ④ 受動文の形態。関係文の構造。接続法の用法。

■参考文献

- 『よくわかるドイツ文法』大岩信太郎著(朝日出版社)
『必携ドイツ文法総合まとめ(改訂版)』中島・平尾・朝倉著(白水社)
『自習ドイツ語問題集』尾崎盛景 高木実 共著(白水社)

科目コード	科目名	単位数
0053	ドイツ語Ⅲ	2単位

教材コード 000026

教材名 『ベルリン・ドイツ統一の日』

著者名等 G.Kluchert・池田 信雄 共著

■教材の概要

教科書『ベルリン・ドイツ統一の日』(Berlin・Dokument Wiedervereinigung)は、先頃世界中の人々を感動の渦に巻き込んだ「ベルリンの壁の崩壊」と、それに続く「ドイツ統一」までのベルリンの街の様子を興味深く記したものです。教科書のドイツ語は平易で、初級のドイツ語文法を理解している学生諸君なら十分に理解が可能なものです。戦後の復興を成し遂げたドイツにとって、喉元に刺さった棘のようなものであった「ベルリンの壁」の話は興味深いものです。

■学習計画のポイント

これまでに学んだ初級ドイツ語の文法知識の復習をかねて、教科書を最初からゆっくり読んでいってください。「独和辞典」をていねいに引き、ドイツ語の一語一句の意味をおろそかにせず、難しい文章に出会ったときは、文法の教科書(「ドイツ語Ⅰ」)を手掛かりに、正しい日本語になるまであきらめずにがんばってください。この教科書にはドイツ人教師による発音のテープ(別売り)も用意されており、また教科書の内容を再現した美しいビデオも教科書の出版社から発売されています。これらを副教材として併用すれば、とくに自宅で学習される学生諸君には、学習効果も倍増するものと思います。

■学習上の留意点

「ベルリンの壁」が作られ、崩壊した歴史的背景を、日本で刊行されている書物を参考に理解したあと、教科書の中の写真を手掛かりに本文のドイツ語の内容を読解することをお勧めします。また教科書の出版社が副教材用に製作しているビデオの助けを借りながら、教科書のドイツ語を理解するのも効果のある勉強方法だと思います。

■参考文献

※『社会主義の20世紀 第一巻 守護の壁・恥辱の壁 [東ドイツ]』(日本放送出版協会)

科目コード	科目名	単位数
0054	ドイツ語Ⅳ	2単位

教材コード 000442

教材名 『フリーダ伯母さん TANTE FRIEDA』

著者名等 ルードヴィヒ トーマ・長谷川 つとむ・川嶋 正幸 編

■教材の概要

教科書の『フリーダ伯母さん』は、ドイツのマーク・トゥェインと称せられたルートヴィヒ・トーマ(1867 - 1921)が、20世紀初頭、代表作『悪童物語』に続いて執筆した小品です。この作品でも、前作で描かれたトーマの分身ともいべきいたずらっ子が、ドイツのハックルベリー・フィンさながらに大活躍します。決して難しい文章ではありませんし、巻末に詳細な注解が添えてありますので、一文一文噛みしめながら読んで下さい。

■学習計画のポイント

教科書に書かれている文章の中には、最初は分かりにくいと感じる文章もあるかもしれません。模範的な文章でのみ構成されている「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の教科書の文章とは異なり、日常会話の文章では省略が行われたり、本来副文になるべきところが主文の形になったりすることがあります。このような文も少し読んでゆけば直ぐに慣れますし、判りにくい箇所も注解を参考にすれば難しいものではありません。すでに習得したドイツ語の文法の知識を基礎に、ゆっくりと読解の学習を続けてください。原文と訳文をノートに書き、文の構造を文法的に理解しながら、文意を把握できる意味の通った訳文を書くように努めてください。

■学習上の留意点

百年前の日本語は現代語とは随分違いますが、ドイツ語の場合、昔は存在しなかった言葉や、現在では無くなってしまった言葉、そして正書法を別にすると、百年前のドイツ語と現在のドイツ語にそれほど大きな違いはありません。したがって基礎の文法力があれば、ゲートでもトーマでも読むことができます。なお文学作品を訳す場合、例えばこの場合、トーマの文章にある生き生きとしたリズムを活かした日本語に訳したくなります。できればそれに越したことはありませんが、うっかりすると日本語に拘って原文から離れた訳を作りがちになります。そのような訳は困りますし、そのような訳には誤訳が隠れている場合が多いのです。直訳で全く構いませんので、読む人が主語や目的語をはっきり理解できるような訳を心掛けてください。

■参考文献

『中級ドイツ語の研究』信岡資生 藤井啓行 共著 (朝日出版社)

『中級ドイツ語のしくみ』清野智昭著 (白水社)

科目コード	科目名	単位数
0056	フランス語Ⅰ	2単位

教材コード 000372

教材名 『新ゼフィール（フランス語文法の基礎）』

著者名等 E.E.F.L.E.U.K.

■教材の概要

初級フランス語の習得に必要な文法事項が丁寧にかつ分かりやすく解説された教材です。しかも例文のすべてと練習問題の大半が付属のCDに収められているので、学習者は文法事項を頭で理解したなら、今度はCDを聞きながらそれを何回（何十回）と自分で発音して、フランス語を「音」として身に付けることが可能です（外国語は頭と口を使って覚えるものです）。

■学習計画のポイント

- ① 『フランス語Ⅰ』の「報告課題」の範囲対象は、文法面に関しては本教材の第1課から第6課前半（8～27ページ）ですが、基本的な単語に関しては『フランス語Ⅱ』をフルに活用してください。『フランス語Ⅰ』と『フランス語Ⅱ』の違いはレベルの違いではなく、前者が文法面での理解を目的としたもの、後者が基本的な語彙の習得を目的としたものです。
- ② また、『フランス語Ⅰ』の「報告課題」の範囲内には〈第1群規則動詞〉と呼ばれるものがいくつも出てきますが、それらもすべて『フランス語Ⅱ』に収められています。学習者は、フランス語Ⅰ・Ⅱの段階では、この2冊のテキストに全面的に依拠す形で学習を進めることが可能です。

■学習上の留意点

「報告課題」は全問が《発音記号の文字化》とその上での和訳です。また「報告課題」の内容を多少応用・変形して出題する「科目修得試験」にあっても、70%は同じ形式を取ります。したがって日頃の学習ではまず、「音」をしっかり身に付ける姿勢を心がけてください。

■参考文献

『フランス語Ⅰ』『フランス語Ⅱ』ともに、それぞれ文法面と基本的な語彙面では通信教育に最も適していると思われるものを選びましたので、これ以外に参考書は不要でしょう。ただし新しく始める外国語ですから、信頼できる仏和辞典が絶対に1冊は必要です。既に辞書をお持ちの方は構いませんが、まだお持ちでない方には「白水社」の『ディコ仏和辞典』がおすすめです。

科目コード	科目名	単位数
0057	フランス語Ⅱ	2単位

教材コード 000373

教材名 『CD・イラストで覚えるフランス語基本 500 語』

著者名等 フランス語教育振興協会編

■教材の概要

『フランス語Ⅰ』が主として文法面の理解と把握を目指しているのに対して、この教材は端的に基本単語の習得を目的としています。ここに収められている約 500 語は、英語にすればいずれも中学 1 年・2 年生レベルのものばかりですし、学習者が今後フランス語の学習を進めていく上で必要不可欠なものばかりです（逆に言えば、フランス語は英語ほど語彙が多くないので、実用フランス語検定試験の 5 級から 3 級くらいまでは、この中の 500 語で十分対応が可能です）。当然すべての例文が付属の CD に収録されていますし、また可愛い（＝微笑ましい）イラストが描かれているのも大きな魅力です。

■学習計画のポイント

- ① 『フランス語Ⅱ』の「報告課題」の直接的な対象範囲となるのは、文法面に関しては『フランス語Ⅰ』の第 6 課後半から第 8 課まで（27～37 ページ）ですが、それ以外に数（1～31）・曜日・月・季節などが含まれます。これらに関してはこの教材を使ってしっかり覚えてください。
- ② さらに『フランス語Ⅰ』の「報告課題」の中で出題されている〈第 1 群規則動詞〉や、報告課題フランス語Ⅲの中で出題されている〈不規則動詞〉の活用もすべて音声化されて収録されています。フランス語の学習は常に動詞の活用（人称変化）を覚えることが中心となります。ひとつひとつの単語を覚えるのは無論ですが、動詞の活用さえマスターしてしまえばあとは基本的に中学の英語と同じです。動詞の「現在形」の活用を覚えるという点でも、この教材は最適です。

■学習上の留意点

「報告課題」は全問が《発音記号の文字化》とその上での和訳ですし、また「報告課題」の内容を多少応用・変形する形で出題する「科目修得試験」にあっても 50% は同じ形式を取ります。したがって日頃の学習ではまず、「音」をしっかりと身に付ける姿勢を心がけてください。

■参考文献

『フランス語Ⅰ』『フランス語Ⅱ』ともに初級フランス語としては通信教育に最適と思われるものをチョイスしてありますので、これ以外に参考書は不要でしょう。内容的には中学 1 年生の英語と同じですから、〈分かる〉〈分からない〉ということはないはずで、あとは時間と労力を割いて〈覚える〉だけです。外国語の習得にあっては、〈分かる〉と〈覚える〉は完璧にイコールです。

科目コード	科目名	単位数
0058	フランス語Ⅲ	2単位

教材コード 000374

教材名 『アルモニ』

著者名等 渡辺 公子

■教材の概要

初級フランス語も後半部分になると次第に複雑になってきます。そこで『フランス語Ⅲ』用の教材としては文法上の説明が丁寧な1冊を選びました。『フランス語Ⅰ』『フランス語Ⅱ』と異なり、付属のCDは付いていませんが、音声面は『フランス語Ⅰ』の同じ個所の例文を参考にして補ってください。またこの上の『フランス語Ⅳ』で必要とされる文法事項（「半過去形」「未来形」「条件法」や「接続法」など）の基礎的な理解を助ける上でも役立つことでしょう。

■学習計画のポイント

- ① 『フランス語Ⅲ』の「報告課題」の直接的な対象範囲となるのは、本教材の第7課から第8課まで（32～39ページ）ですが、〈不規則動詞〉の現在形の活用に関しては『フランス語Ⅱ』が大いに参考になるはずです。
- ② また『フランス語Ⅲ』が対象とする「複合過去形」や「人称代名詞の語順」（本教材第7課）、さらには「代名動詞の用法」（本教材第8課）などは、いずれもフランス語を習得する上で非常に大切なものです。したがってそれらの文法規則を本教材を使って頭で理解したなら、今度は『フランス語Ⅰ』の当該個所の例文や練習問題のCDを何度となく聴き自分でも発音して、「音」として覚えてください（『フランス語Ⅰ』でも述べましたが、外国語の習得は頭と口を使って行なうものです）。

■学習上の留意点

「報告課題」は全問が《発音記号の文字化》とその上での和訳ですし、「報告課題」の内容を多少応用・変形する形で出題する「科目修得試験」にあっても50%は同じ形式です。したがって日頃の学習ではまず「音」をしっかりと身に付ける姿勢を心がけてください。

■参考文献

上述のように、〈不規則動詞〉の人称変化に関しては『フランス語Ⅱ』が大いに役立つでしょうし、文法事項の理解と把握という点では『フランス語Ⅰ』と『フランス語Ⅲ』で十分なはずですが。前にも述べましたように、外国語習得にあっては、〈覚えた〉ことだけが初めて〈分かった〉こととなります。

科目コード	科目名	単位数
0059	フランス語Ⅳ	2単位

教材コード 000347

教材名 『Voilà! ヴワラ』

著者名等 伊勢 晃・谷口 千賀子

■教材の概要

初級フランス語も最終段階になるとかなり複雑になります。とりわけ最後の「条件法」や「接続法」などはもう中級の領域といってもいいくらいです。そこでフランス語Ⅳでは、文法上の説明が分かりやすく、かつCD化された例文の豊富なテキストを選びました。無論たんにフランス語Ⅳの範囲内の学習にとどまらず、フランス語ⅠからⅢまでの範囲内の復習をする上でも大いに役立つでしょう（フランス語は1度や2度の学習で習得できるほど容易ではありませんし、またすぐに口を突いて出てくる例文が多ければ多いに越したことはありません）。

■学習計画のポイント

- ① 『フランス語Ⅳ』の「報告課題」の直接的な対象範囲となるのは、第13課「半過去形／大過去形」から第20課「接続法」（52～83ページ）までです。中でも中心となるのは、第13課「半過去形」、第17課「単純未来形」、第18課「ジェロンデイフ」、第19課「条件法」、第20課「接続法」と、いずれも動詞の《時制変化》《法変化》です。つまりフランス語の学習は、つねに「動詞の活用」が中心になります。この「動詞の活用」さえクリアしてしまえば、あとは基本的に英語と同じです。
- ② またCDこそ付いていませんが、『フランス語Ⅲ』にも分かりやすい説明が載っているので（第9課～第12課）そちらも是非参考にしてください。

■学習上の留意点

「報告課題」は全問が《発音記号の文字化》とその上での和訳ですし、また「報告課題」の内容を多少応用・変形する形で出題する「科目修得試験」も40%は同じ形式を取ります。したがって日頃の学習では、まず「音」をしっかりと身に付ける姿勢を心がけてください（「音」を伴わない学習は「語学」ではなく「考古学」＝「象形文字の解読」です）。

■参考文献

「参考文献」という訳ではありませんが、「報告課題」と「科目修得試験」のそれぞれⅠ～Ⅳに合格された方ならば、《実用フランス語技能検定試験》（通称、仏検）の4級合格は間違いありませんし、熟語や慣用表現をもう少し身に付ければ3級合格も十分に可能です。是非積極的にチャレンジしてみてください。

科目コード	科目名	単位数
0061	中国語Ⅰ	2単位

教材コード 000456

教材名 『中国語キャンパス会話編（改訂版）』

著者名等 関中研

■教材の概要

本教材は会話に重点を置いた中国語入門教材である。各課は基本的に会話体の例文及びヒアリング・和文中訳を中心とした練習問題から構成されており、またそれぞれの課は易から難へ段階を踏みながら進むように配列されている。日常シーンで用いられる会話がほぼ網羅されている。必ず辞書を引いて意味を確認すること。なお、外国語学習においては実際の発音に触れることが不可欠であるが、教材のみでの学習ではなかなか難しい。幸い本教材にはCDが付属しているため、よく聞いて少しでもその欠を補っていただきたい。

■学習計画のポイント

1課以前は発音編であるが、説明のみに頼らず、付属CDを聞きながら何度も練習すること。練習問題については、形式の如何にかかわらず、全てについて日本語⇔中国語、中国語⇔日本語の訳ができるようにしておく。ピンインもすべて書けるようにしておく。また、バリエーションや会話に出てくる中国語についても、すべて日本語⇔中国語、中国語⇔日本語の両方の訳ができるようにしておく。新出単語には簡単な訳語が付されているが、これのみでは不十分である。参考文献として挙げた辞書等でより詳しく調べておくこと。

■学習上の留意点

- ①教材すべてを暗記するつもりで、繰り返し音読すること。
- ②和文中訳や中文和訳においてはレポートのポイントで挙げた点に注意されたい。

■参考文献

『中日辞典（第2版）』（小学館）

当面は小型の辞書で間に合わないことはないが、いずれは中型以上の辞書が必要となる。なお、電子辞書は初・中級の外国語学習には不適當であると心得られたい。

科目コード	科目名	単位数
0062	中国語Ⅱ	2単位

教材コード 000457

教材名 『中国語キャンパス基礎編（改訂版）』

著者名等 関中研

■教材の概要

本教材は文法に重点を置いた中国語初級～中級教材で、中国語Ⅰで使用する教材の続編である。各課は基本的に散文と、それに対するキーワード・補充例文及びポイント（発展的文法）で構成されており、またそれぞれの課は易から難へ段階を踏みながら進むように配列されている。文法は説明を読むだけでは理解できない。練習問題をやることによって始めて理解し定着させることができるのであるから、必ず巻末のドリルを解かなければならない。なお、外国語学習においては実際の発音に触れることが不可欠であるが、教材のみでの学習ではなかなか難しい。幸い本教材にはCDが付属しているので、よく聞いて少しでもその欠を補っていただきたい。

■学習計画のポイント

練習問題については、形式の如何にかかわらず、すべてについて日本語⇔中国語、中国語⇔日本語の訳ができるようにしておく。ピンインも全て書けるようにしておく。また、本文・キーワード・ポイントなどに出てくる中国語についても、すべて日本語⇔中国語、中国語⇔日本語の両方の訳ができるようにしておく。新出語句には簡単な訳語が付されているが、これのみでは不十分である。参考文献として挙げた辞書等で詳しく調べておくこと。

■学習上の留意点

- ①教材すべてを暗記するつもりで、繰り返し音読すること。
- ②和文中訳や中文和訳においては、レポートのポイントで挙げた点に注意されたい。

■参考文献

『中日辞典（第2版）』（小学館）

中型以上の辞書が必要である。電子辞書は初・中級の外国語学習者には不適當であると心得られたい。

科目コード	科目名	単位数
0063	中国語Ⅲ	2単位

教材コード 000458

教材名 『中国語検定4級合格への手引き』

著者名等 池間 里代子

■教材の概要

本教材は中国語文法解説を通して、文法を整理し理解するとともに、中国語検定4級（初級終了）レベルのリスニング練習をするためのものである。Ⅱ～Ⅴ章は述語（動詞・形容詞）を中心に述べており、中国語Ⅰ・Ⅱで習得した文法項目をよく復習すれば理解できる。各課は主に文法解説とそれに対応する例文から構成されている。基本的には例文には日本語訳が付されているが、初出単語は辞書で確認されたい。各課末と巻末には練習問題があり、別冊の解説を参照しながら理解を深めることができる。

■学習計画のポイント

まずⅠ章から順に進んでいく。文法説明をよく読み、例文を理解していく。一通り終わったらもう一度初めから同様にして読んでいく。これを繰り返していけばほとんどの文法が理解できるだろう。次にすべての例文を覚える。最後に各課末・巻末の練習問題をやってみる。これも漢字とピンインの両方で書く。間違えた箇所はもう一度教材をよく読んで考えてみる。

■学習上の留意点

練習問題に使われる単語は難しいものが多いので、初出単語は辞書で意味・用法を調べること。

■参考文献

『中日辞典（第2版）』（小学館）、あるいは同等レベルの辞書が必要である。

科目コード	科目名	単位数
0064	中国語Ⅳ	2単位

教材コード 000459

教材名 『時事中国語の教科書 2011 年度版』

著者名等 三瀧 正道・陳 祖蓓

■教材の概要

本教材は読解力養成を目標とした教材である。中国語Ⅰ～Ⅲまでは和文中訳を通して文法事項を習得すつことを目標としていたが、Ⅳでは中文和訳の能力が必要とされる。教材の内容はかなり高度であるが、全文に発音がふさされており、更に詳細な語注も付されているので、十分理解可能であろう。ただし、自分で辞書を引きながら読んでいく過程も不可欠である。本教材で力をつければ、実際に中国で発行・出版されている新聞・雑誌や小説を読むことも不可能ではない。是非目標の一つとして頑張ってもらいたい。

■学習計画のポイント

本文のみならず、読解の手がかりや語注に出てくる例文もきちんと押さえておく。また、漢字・ピンインで記された中国語も正しく理解できるようにしておく。

■学習上の留意点

語句の説明を見てよしとするのではなく、辞書や文法書で一字一句得心いくまで調べる。また、本文やポイントの例文は、すべて暗記できるまで繰り返して音読すること。

■参考文献

『中日辞典（第2版）』（小学館）、あるいは同等程度の辞書は必要だろう。文法の参考書としては『中国語検定3級合格への手引き』池間里代子（南雲堂フェニックス）を挙げておく。

科目コード	科目名	単位数
0066	日本語 I	2 単位

教材コード 000295

教材名 『どなたときどう使う日本語表現文型 200 初・中級』（学習指導書別冊）

著者名等 友松 悦子・宮本 淳・和栗 雅子

■教材の概要

『どなたときどう使う日本語表現文型 200』を教材にして、どういうときに（どんな場面で、どんなことばを使えばいいかを学習します。

教材には各課のはじめに「知っていますか」「使えますか」という“うでだめし”のコーナーがありますから、自分がどのくらい文型を知っているか、正しい使い方をしているかがチェックできます。学習内容についての理解確認は練習のコーナーで行ないます。

■学習計画のポイント

本課は「時間関係」「比較・対比」というような文型別に 20 課に整理されています。各項目は基礎と発展に分かれていますので、基礎をしっかり理解してから、発展の文型に進みます。

“うでだめし”で自分の知識を知る→「本文」で文型の使い方を学習する→「練習」で学習した内容を確認するという順番に学ぶことをすすめます。教材の中にコラム欄が設けられていますが、文法を理解する上で重要な項目ですから、時間をかけて取り組んでください。

話しことば的な表現・書きことば的な表現など、図式された項目名を参考に、使用方法を理解してください。

■学習上の留意点

日本語能力の「書く」「読む」「話す」力は、この教材で養えます。文型がある程度理解できるようになったら、ニュースを聞くなどして「聞く」力の向上も心がけてください。聞いている内容を把握するには、語彙力が必要になりますから、教材で十分な語彙力を身につけることが大切です。

聞き手に意思を伝える「話す」力には、筋道のたった正しい文型理解とその使用が必要です。教材ではその理解力を養い、実践で発音に関する能力を養うよう、心がけてください。

■参考文献

『なめらか日本語会話（新装版）』富阪容子著（アルク）

※『読む聞く ニュースの日本語』片山朝雄著（アルク）

科目コード	科目名	単位数
0067	日本語Ⅱ	2単位

教材コード 000460

教材名 『にほんご作文の文法』

著者名等 佐藤 政光・戸村 佳代・池上 摩希子

■教材の概要

教材として『にほんご作文の方法』を取り上げる。中級を対象とした教材だが、テーマや内容の掘り下げによって上級者にも活用できる教材である。1課から16課までさまざまな表現が「物の形」「前後関係」「因果関係」のようにテーマ別に項目だてられているので、目的に合った作文の技術を習得できる。作文力の向上は全体的な日本語力のアップにつながる所以必須の学習項目である。また各課に作文の技術と重要表現が付されているので、具体的な使用法を自習し、練習問題で実力を養成できるよう構成されている。

■学習計画のポイント

本教材は作文に必要な表現を1回から2回に分けて、学習できるように構成されている。まずは作文技術を理解して使えるようになること、そののちこれらの表現が各課配当の文中にどのように使われているか確認して欲しい。短い語句を知るのではなく、文の中で使われ方を理解することが学習のポイントになる。練習を進めていくことで表現力が身につくので段階的に計画を立てて進めることが重要である。

■学習上の留意点

作文技術に取り上げられている文型を使って作例することが最も効果的な学習方法である。分からないことや漢字は辞書で調べて正しく理解し、語彙量を増やすことにも留意すること。

■参考文献

『なめらかな日本語会話（新装版）』富阪容子著（アルク）

『にほんごよむよむ文庫 [レベル2]』vol.3（アスク出版）

『言語学とは何か』田中克彦（岩波新書）

科目コード	科目名	単位数
0068	日本語Ⅲ	2単位

教材コード 000297

教材名 『日本を考える五つの話題』

著者名等 架谷 真知子・津田 彰子

■教材の概要

教材は『日本を考える5つの話題』を取り上げた。教材は日本文と問題文に合冊されているが、本文各話題は「A 基本知識や歴史的背景理解のためのもの」「B 社会的問題としてマスコミで取り上げられたもの」「C 調査・討論など日本による活動のためのもの」によって構成されている。

■学習計画のポイント

各章はABCの読み物を本教材とする。日本の多くの出版物が縦書きであることを考慮し、縦書きの文章も含まれている。縦書きの文章の表記に慣れるよう、句読点・段落ほかにも注意を払うこと。

問題文は①表現練習②接続練習③誤解問題④発展問題その他の問題で構成されているので、①から④の課題をていねいに学習することが望ましい。

表現練習は本文から応用の可能な文型が抜粋されているので、本文を参照しつつ、応用表現を練習する。

接続は文型表現を習得するために重要である。本文を参照しつつ、場面別の表現を整理・理解する。

その他の練習にはスピーチ練習が設問されている。スピーチ文の作成と上達は回数を重ねることで向上する。スピーチ文を繰り返し作成し、必要と考える学生はテープに自分のスピーチを録音して、後で聞きなおすなどの練習も必要である。

■学習上の留意点

本文教材以外に新聞記事や漫画が添えられている。日本事情理解のためにも有意義であろう。十分に活用することを期待する。

■参考文献

『なめらか日本語会話（新装版）』富阪容子著（アルク）

※『日本人の言語表現』金田一春彦著（講談社）

『日本語Ⅱ』（通信教育教材）

科目コード	科目名	単位数
0069	日本語Ⅳ	2単位

教材コード 000461

教材名 『日本への招待 (第2版)』

著者名等 近藤 安月子・丸山 千歌 編著

■教材の概要

本教材は東大教養学部の短期交換留学生用テキスト（中・上級）として開発されたもので、短期間に効率よく学習できるよう配分されている。上級者にとっては日本語の習得と日本社会の理解は不可分だが、本教材ではこの観点から、意識の喚起—資料の提供—考察の整理（書く、読む、話す）が組織的に構成されている。漢字圏・非漢字圏出身のレベルに合わせ振り仮名の有無が分けられているので、自身の目的意識と能力に合わせて学習していただきたい。

■学習計画のポイント

教材の構成と流れは意図的に順序だてられている。意識の喚起と活性化をねらいとした「知っていることを話そう」では、簡単な作文をしてみるのもよいであろう。資料は新聞、雑誌、随筆、グラフ、イラストなど多方面からのアプローチがなされているので丁寧に読解してほしい。テーマは独立しているので初めから順番に行く必要はないが、広範な資料に触れられるメリットを生かして、全テーマにあたること。「知っていることを話そう」—「ここから考えよう」と学習を進めながら語彙・文型を習得していくことが効率のよい学習計画ポイントである。

■学習上の留意点

はじめから振り仮名付を読むのではなく、出来る限り振り仮名のない文に挑戦していただきたい。本教材では資料としてイラストやグラフ、図が多用されている。これらをていねいに読んで理解すること。設問だけを解答していく学習とはまた違った確実な実力養成につながる。

■参考文献

教材の終わりに各課で参考として読むべき「参考図書」リストが付してある。各テーマ最低1冊から2冊は読破してほしい。

科目コード	科目名	単位数
0074	保健体育講義Ⅰ	1単位

教材コード 000395

教材名 保健体育講義Ⅰ

著者名等 吉本 俊明

■教材の概要

本書は体育の役割，文化としてのスポーツ，体育・スポーツの歴史，運動・スポーツと健康，我々を取り巻く環境の5章で構成されているが，いずれも健康という我々にとって最も基本的な権利に直接的・間接的に関わる知識をまとめたものである。

■学習計画のポイント

- ① 教育の中に体育が位置づけられているかを，我々個人個人が持っている欲求，社会が我々に何を望んでいるか，そして実際に体育ではどのようなことが経験できるのかについて理解し，体育の必要性についての認識を高める。
- ② 体育活動で中心的な位置にあるスポーツとはどのような特徴を持って，我々の文化として位置づけられてきたかについて理解することによって，スポーツに接する楽しさの認識を高める。
- ③ 体育が歴史の中でどのように位置づけられてきたかについて理解することは，体育の教育的価値を認識してもらうために必要な知識といえる。
- ④ 運動は我々にとって必要な活動であるが，多くの効果が期待されるとともに，無知な行動がむしろマイナスに働くこともある。適度な運動，健康管理とはどのようなことに気をつける必要があるかを理解することは，人生のどの時点でも必要な運動についての正しい認識を持つことが前提となる。
- ⑤ よりよい環境で健康的な生活を行うことは，誰もが望むところである。我々を取り巻く環境についての理解を深め，対応の仕方を学ぶことは不可欠である。特に文明の恩恵にあずかっている現代だからこそ，ますます必要となってきた知識といえる。

■学習上の留意点

5つの章が目指すことは，単なる知識に留まらず，それらの知識を土台とした運動の実践，健康の管理であることを強調しておく。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
0075	保健体育講義Ⅱ	1単位

教材コード 000037

教材名 保健体育講義Ⅱ

著者名等 吉本 俊明

■教材の概要

本書は、健康が生涯のテーマであるという観点に立って、レジャー・レクリエーション、体力づくり運動とスポーツ振興、体力の維持・増進とトレーニング、運動技能の向上という内容でまとめている。

いずれも、生涯にわたって、どのように運動・スポーツと関わっていくべきかという立場からまとめたもので、実践をともなう知識となることを期待したものである。

■学習計画のポイント

- ① 労働時間の短縮によってできた「ゆとりの時間」をいかに有効に過ごすべきかという観点から、広い視野に立った自由時間の過ごし方について理解する必要がある。
- ② 恵まれた物質文明の中で問題となってきた身体運動の必要性について、国の内外の公的機関が、どのような働きかけをしているかについて理解する必要がある。
- ③ 体力の維持・増進は、健康的な日常生活を過ごすために重要であることを理解し、実践に結びつける必要がある。
- ④ 得意なものは、興味もわき、自主的な行動に結びつくという観点に立って、運動技能の上達法を理解する必要がある。

■学習上の留意点

健康的な生活は、規則正しい生活を基盤とした上で、適度な運動をすることによって、形成される。したがって、知識を実践に結びつけて理解する努力をして欲しい。

■参考文献

- ※『国民の健康・体力づくりの現況』体力づくり国民会議事務局，総務庁青少年対策本部編（大蔵省印刷局）
『レクリエーション活動の実際』池田勝他編（杏林書院）
- ※『トレーニングの科学的基礎』宮下充正著（ブックハウス・エイテディ）